

# 3匹のキツネ 太鼓と舞

## 笠間市



安全安心 大地が育む味  
栗入り揚げ餅

古い納屋を改装した直売所「入やなわぁ工房」（笠間市南友部）が販売する栗入り揚げ餅。もち米独特の香ばしさと栗のほのかな甘味が絶妙だ。工房代表の橋本天敬さん(63)は祖父の代から続く農家。農業や化成肥料は極力使わず、土作りにこだわる。

栗入り揚げ餅は、自家栽培の栗ともち米を材料に桜川市の菓子店に製造を依頼している。橋本さんは「安全安心をモットーに笠間の大地が育んだ味を楽しんでいただければ」と呼び掛ける。1個324円(税込み)。  
☎090(8580)3273



酒蔵のイベントで、勇壮な太鼓と舞を披露する会員＝2017年4月、笠間市稲田（笠間稲荷囃子保存会提供）

笠間市の「稲荷囃子」は、お稲荷さんの使いである3匹のキツネが打ち鳴らす勇壮な太鼓と舞が特徴だ。市内外の催しなどで演奏を披露し、笠間の魅力を発信している。受け継ぐのは、笠間稲荷囃子保存会。笠間稲荷門前商店街の有志により1966年に発足した。会員は約80人。幼稚園児から還暦を超えた人まで祭り好きの幅広い層で構成される。

現在は新型コロナウィルス感染症の影響で活動はほぼ休止状態。特に子どもたちは練習の成果を発揮できず、残念がっているという。それでも昨年12月に水戸市で行われたサッカーJ2・水戸ホーリーホック・ジュビロ磐田戦では、感染対策を十分に施し、試合前とハーフタイムに演奏。同月のかさま陶芸の里ハーフマラソン大会でも、ランナーたちに沿道からお囃子のエールを送った。

佐藤さんは「コロナ収束後は本格的に再開し、演奏を通じて多くの市民に元気を届けたい」と意欲を示している。



笠間市長

山口 伸樹さん

守りたい  
つなごう  
たい

## 稲荷囃子

笠間稲荷囃子保存会の演奏は、私が物心ついた頃から笠間の四季を彩る風物詩の一つとなっています。春には、色鮮やかなツツジを背景に迫力のある太鼓の音色を聞いていつもワクワクしています。保存会は一年を通じてイベントを盛り上げてくれる欠かせない存在で、伝統文化について触れる機会を与えてくれます。これからも次世代へと受け継がれ、笠間市を盛り立ててくれることを心から期待しています。

承していきたい」と活動への思いを語る。

練習は週2回夜、笠間公民館で実施。地域の祭りをはじめ、幼稚園や保育所、高齢者施設などで演奏を披露する。これまで茨城国体(74年)、ハワイ・ホノルル公演(96、2000年)、国民文化祭(08年)など大きなイベントにも参加してきた。